

Citation: Temple J, Santy J. Pin site care for preventing infections associated with external bone fixators and pins. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2004, Issue 1. Art. No.: CD004551. DOI: 10.1002/14651858.CD004551.

CRG名: Wounds

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 19 November 2003

Clib issue No.; N/U: 2007 issue 4; -

背景: 整形外科領域の骨折管理において直達牽引または創外固定器を装着するための金属製ピンが用いられている。これらのピンは皮膚から突出し、従って「経皮」ピンとして記載されており、それに伴う皮膚創傷の管理に関する報告が数多くある。経皮ピンの取り扱い方法はピン刺入部の感染の発現頻度に影響を及ぼすようである。ケアに推奨されている事柄は必ずしもエビデンスに基づいていない。感染率に対するピン刺入部ケアの効果に関する研究エビデンスを要約するために本レビューに着手した。

目的: 整形外科領域の経皮ピン刺入部の様々な清浄法と包帯法が感染率に及ぼす影響を評価する。

検索戦略: 以下の電子データベースを検索した: Medline(1966年以降)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(2003年第1号)、Wounds Group Specialised Trials Register(2003年3月)。さらに、レビュー論文と関連する試験の参考文献リストについても検索し、一部はハンドサーチした。

選択基準: 整形外科領域の経皮ピン刺入部の様々な清浄法または包帯法が感染率に及ぼす影響を比較しているすべてのランダム化比較試験(RCT)を評価した。

データ収集と分析: 関連するRCTの報告に関する検索戦略を用いて、2名のレビューアが検索した引用を独自に評価した。

主な結果: 1件の試験のみが本レビューへの選択に適格であった。Henry(1996)は0.9%食塩水による清浄を70%アルコールによる清浄および無清浄と比較し、清浄していなかったピン刺入部で感染が有意に少ないことを見いだした。

レビューアの結論: ピン刺入部のいずれのケア法が最も良好に感染率を低下させるかに関するエビデンスはほとんどない。ピン刺入部の最適な管理方法を明らかにするための大規模RCTが必要であることは明白である。

(監訳 柴田実)

翻訳公開日: 08年1月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。